

特集テーマ「後期青年期の現在」について

紀要編集委員会（特集企画担当：本田由紀）

今回の特集は、「後期青年期の現在」というタイトルのもとに、日本における20代から30代前半の若者の現状について、多様な角度から検討を加えることを企図したものである。

欧米諸国においては、社会の構造的変化（たとえばベックの指摘する「個人化」やバウマンの指摘する「流動化」、あるいは「グローバル化」）とともに、青年期の長期化や「大人」（成人期）への移行の遅延および不明確化が生じていることが指摘されている。こうして青年期と成人期の間に出現したグレイゾーンに対して欧米では関心が高まっており、この時期における青年から成人への移行に関わる様々なメルクマール―離学、就職、離家、家族の形成など―の間の関連性の減少や時間的前後関係の変化・逆転などに関する研究が進展している。

このグレイゾーンの時期は、年齢層としてはほぼ20代から30代前半頃までに該当するといえる。この年齢段階に「ポスト青年期」という名称を与える研究も現れているが、本特集では以下に述べるような考え方に基づいて「後期青年期」という概念を用いることにした。すなわち、青年期を子供期から成人期への過渡期として位置づけ、かつ（延長された）青年期を30代前半までとみなす見方は従来からあり、この意味での青年期の後半部分を指す言葉として「後期青年期」は適切である。「ポスト青年期」という言葉には、「青年期の後にくる（新しい）時期」という意味が込められているが、青年期と「ポスト青年期」がいかなる基準によって区別されるかについては、いまだ認識が確立されているとはいえない状況にある。それゆえ今回の特集では、いわば地味ではあるがより妥当な概念として「後期青年期」という言葉を採用する。

なお、主に大学生を対象とする心理学等の研究においては、18歳頃から20代はじめ頃までの若者を指して「青年期後期」と呼ぶ場合があるため、「後期青年期」とい

う言葉は紛らわしく感じられるかもしれない。しかし、青年期の延長に関する議論が蓄積されつつある中で、依然として20歳前後を「青年期後期」と呼び、しかも大学生に焦点を当てることの多いこの種の研究に対するアンチテーゼの意味をも込めて、我々はあえて20代から30代前半の多様な社会的立場にある若者を「後期青年期」という呼称で取り上げることにしたい。ただし、特集タイトルの英訳については、上記の「青年期後期」を想起させる‘late adolescence’を用いることは避け、今回注目する年齢層を言い表す英語として‘extended adolescence’を用いる。

日本では、新規学卒一括採用を中心とする独特の若年労働市場構造を主な背景として、最近まで「後期青年期」問題は顕在化していなかった。しかし90年代半ば以降、日本でも欧米社会と同様の変化が観察されるようになってきている。たとえば学校から仕事への移行が従来と比べて困難さを増し、若年失業者や「フリーター」、無業者が増加していることは周知の通りである。こうした労働市場の変化とともに、若者の就業意識が変化していることも指摘されている。このような仕事への移行の困難化は、若年層における階層格差の明確化をもたらしめている可能性がある。また仕事以外の側面である家族形成の点でも、晩婚化・非婚化や少子化が著しく進行しており、それは「パラサイト・シングル」と呼ばれる離家の遅延とも直接に関連している。さらに「後期青年期」における下位文化に関しても、携帯電話やインターネットなどのメディア行動がもたらす影響や、コミュニケーション行動の変化などについての指摘は数多い。これらの諸変化は、「後期青年期」における従来のジェンダー構造のゆらぎを物語るものでもある。家計の担い手となりえない若年男性の増加は、旧来の性別役割分業を成立しにくくしている。他方で、このような「後期青年期」の問題性ばかりでなく、それが新しい価値観や社会運動、ライフコースを形成する上で内包している可能性に着目する向きもある。

ただし、こうした最近の様々な現象を、現代社会において「後期青年期」が直面する根本的な問題として追求する研究動向は、国内では散発的なものにすぎない。日本の教育社会学の中でも、20代から30代前半という年齢層が抱える固有の現実や課題に対して焦点を当てる研究は、従来相対的に少なかったといってもよいだろう。それゆえ本特集では、「後期青年期の現在」をテーマとして掲げ、そこに包摂される様々なトピックに関する最新の研究成果を提示することにより、現代社会における「後期青年期」問題への関心の喚起を図ることを試みる。そして「後期青年期」の現状を検討することを通じて、すでに「近代」を超えた段階に足を踏み入れつつある現代の日本社会が内包する諸特質を逆照射することをも目的とする。